

鳥取大学附属図書館における社会貢献の現状 －県内図書館との連携－

白 木 俊 男, 森 田 正

抄録：鳥取大学附属図書館は、開学以来、地域住民に対して図書館の開放を行う数少ない国立大学図書館のひとつであった。近年は鳥取県内の大学図書館等との相互協力のみならず、館種を異にした近隣の公共図書館とも積極的な連携強化に努め、利用者サービスの向上ならびに地域住民に親しまれる図書館を目指して活動を展開している。また、社会貢献の一環として、職場体験学習やインターンシップを受け入れるとともに、公共図書館の運営会議等にも積極的に参画している。

キーワード：社会貢献，地域貢献，地域連携，相互協力，図書館公開，図書館連携，職場体験学習，インターンシップ

1. はじめに

鳥取大学附属図書館は、鳥取地区の中央図書館と米子地区の医学部分館から構成され、昭和24年鳥取大学（以下、本学という）が設置されると同時に、その母体となった鳥取師範学校・鳥取青年師範学校・米子医学専門学校・米子医科大学・鳥取農林専門学校の各図書館・図書室を包括して発足した。

その後、鳥取地区の中央図書館は昭和41年の統合移転により現在の地に新築され、昭和47年、昭和55年の2度の増改築を経て現在に至っている。また、米子地区の医学部分館は昭和46年に新築され、昭和55年に増築を行っている。両館ともこの四半世紀の間、図書館の建物には修理以外の手が入っていないという状況である。このような理由から、他大学の新しい図書館と比べると施設的には旧態依然とした状況ではあるが、図書館サービスの内容については、それなりにきめ細かいサービスを提供できていると自負している。

なお、蔵書数は、中央図書館が約50万冊、医学部分館が約15万冊、合計約65万冊である。

2. 地域住民への図書館公開

本学附属図書館は昭和24年の開学以来、地域住民への図書の閲覧を認めている。地域住民への大学施設の開放が声高に叫ばれ始めたのが、この10年来のことと考えると、いかに早い時期から図書館の開放を実施していたかがわかる。

その後、中央図書館においては平成8年度から地域住民への1週間2冊までの資料の貸出サービスを開始した。平成9年度からは貸出期間をさらに1週間延長して2週間2冊までの貸出サービスを実施し、現在に至っている。中央図書館の1日平均入館者数は1,051名、そのうち地域住民は約8名。年間

貸出冊数34,019冊のうち地域住民への貸出冊数は527冊である。

また、平成17年5月からは図書館内のインターネットに接続したパソコンの利用についても、利用したい旨を図書館カウンターに申し出ていただき、学外者専用ログインキー（USBメモリキー）をカウンターで貸し出すことにより、地域住民にも図書館のパソコンを利用していただける環境を構築した。

医学部分館は、地域住民の図書館利用に際して、平成16年3月末まではその都度「一日入館票」を発行し、館内資料の閲覧サービスのみを提供していた。平成16年6月からは中央図書館同様、2週間2冊までの資料の貸出サービスを実施している。医学部分館の1日平均入館者数は428名、そのうち地域住民は約2名。年間貸出冊数11,097冊のうち地域住民への貸出冊数は224冊である。なお、地域住民への図書館のパソコン利用サービスについては、中央図書館と同様の方法で実施している。

3. 他大学図書館等との連携

鳥取県は過疎地域のため、鳥取県の大学は本学と鳥取環境大学（鳥取市）の2校しかない。2校だけでは協議会というほどのものではないため、鳥取短期大学及び米子工業高等専門学校にも呼びかけ、平成13年10月に「鳥取県大学図書館等協議会」の第1回目の会合を持った。

協議会設立の目的は「会員相互間の連携と協力を図り、県内大学図書館等の充実と発展に寄与すること」とし、事業内容としては、

- 1) 図書館に関する調査及び研究に関すること。
- 2) 研究会、研修会等の開催に関すること。
- 3) 相互協力の推進に関すること。
- 4) 関係団体との連絡及び連携に関すること。

5) その他、本会の目的を達成するために必要な事業に関すること。
を掲げている。

現在、会則に基づき幹事館は本学が担当し、副幹事館は毎年持ち回りで年1回の総会を開催している。各加盟館の活動状況報告ならびにその時々的重要な課題、地域サービスのあり方などについても協議し、連携強化に努めている。また、相互協力遂行上の実務レベルの細かな問題点等についてもこの席上で協議している。

今後は、図書館職員の養成ならびにスキルアップのための研究会や研修会を共同で開催し、より密度の濃い連携を模索していきたいと考えている。

4. 鳥取県立図書館との連携

鳥取県立図書館（以下、県立図書館という）は鳥取駅から徒歩20分（バスで5分）の場所にある。本学鳥取キャンパスから最寄りの鳥取大学前駅までは徒歩3分。さらに鳥取駅までは列車で2駅（所要時間8分）である。昼間に利用できる列車は平均して約40分に1本の割合であるため、県立図書館までの往復だけで最低1時間程度は要する計算となる。

まず、本学附属図書館が最初に相互協力協定を締結したのは平成14年12月、この県立図書館とであった。相互協力に関する事項としては、

- 1) 図書資料の相互貸借に関すること。
- 2) 図書資料の文献複写に関すること。
- 3) レファレンス（参考相談・調査・紹介）に関すること。
- 4) 図書館利用者講座に関すること。
- 5) 横断検索に関すること。
- 6) 職員の相互交流に関すること。

を掲げている。県立図書館との現在に至るまでの相互協力の経緯については表1のとおりである。相互協力協定の締結については県立図書館からの働きかけが契機となっているが、その後の様々なサービスの拡大については本学から提案し、実現したものである。

現在では、本学中央図書館ならびに医学部分館で本学関係者が県立図書館資料を午前中に申し込むと、翌日の午後には当該資料が県立図書館の負担により宅配便で図書館に届く仕組みとなっている。県立図書館資料の返却は、本学図書館（中央図書館ならびに医学部分館）内に設置している県立図書館用図書返却ポストにより行っている。また、県立図書館からの依頼があれば、本学の負担で宅配便を利用して資料の搬送を行っている。現状では本学図書館

から県立図書館への資料の搬送は年間数例しかなく、県立図書館側からの搬送が大部分を占めている。このシステムは、現在のところ図書館間の現物貸借として運用している。したがって、本学利用者が所定の期限までに資料の返却を行わず延滞した場合、県立図書館側の延滞リストに掲載される。このような事態が発生すると県立図書館から連絡が入り、本学職員が利用者に対して返却するように督促を行う流れとなっている。システムの概略は図1に示すとおりである。

また、医学部分館については十分とは言えない資料費の大部分を電子ジャーナル・データベース・外国雑誌・医学書等にあてているため、中央図書館以上に一般教養図書が少ない。このことを打開する施策のひとつとして上記のサービスとは別個に、3ヶ月ごとに300冊の図書を貸出していただける「県立図書館協力図書貸出サービス」の提供を依頼し、現在そのサービスを受けている。この資料の選書については、医学部分館職員が行っている。

このように県立図書館との相互協力にあたっての本学の狙いは、少ない図書資料費の中から小説や一般教養図書に予算を支出しづらい状況を何とかしたいという点にあった。新規購入の余裕がない一般教養図書について、県立図書館資料を活用させてもらうことにより、「一般教養図書や新刊本の小説等も購入して欲しい」という本学学生の切実な要望に応えることができるのではないかという思いがあった。また、県立図書館資料を利用したくても、前述のように県立図書館に行くまでの時間がかかるため利用できないという利用者の実情を、大学図書館カウンターで本の借り受け、返却もできるという利便性を向上させることにより、少しでも解消できるのではないかと考えた。

連携による県立図書館側のメリットとしては、地域住民の利用が少ない専門書については大学図書館資料の活用任せ、資料収集上の棲み分けを行える点にある。県立図書館としても限りある予算を利用者である県民のために有効に活用したいとの思いがある。また、学術的な専門性を必要とするレファレンスについては本学図書館と協力することにより、中長期的な視野に立って考えれば利用者サービスの向上に繋がるとの判断があったと推測される。本学での県立図書館資料の利用状況は図2のとおりである。

相互協力協定事項に掲げた横断検索については平成17年3月、本学の図書館システム更新の一環として導入した。本学側からは鳥取県大学図書館等協議会加盟館ならびに県立図書館資料を横断的に検索

表1 鳥取県立図書館との相互協力の経緯

日 付	内 容	備 考
平成14年8月9日	県立図書館との相互協力に向けての初回打ち合わせ	申込翌日には宅配便で到着 申込翌日には宅配便で到着 3ヶ月単位で300冊の貸出
平成14年12月1日	県立図書館との相互協力に関する協定書の調印	
平成15年4月1日	県立図書館の図書返却ポストを中央図書館内に設置	
平成16年4月1日	中央図書館カウンターでの県立図書館資料貸出サービス開始	
平成16年8月1日	医学部分館カウンターでの県立図書館資料貸出サービス開始	
平成16年8月16日	医学部分館カウンターでの県立図書館協力図書貸出サービス開始	
平成17年5月29日	鳥取大学附属図書館側からの県立図書館資料横断検索サービス開始	
平成18年2月予定	県立図書館側からの鳥取大学附属図書館資料横断検索サービス開始	

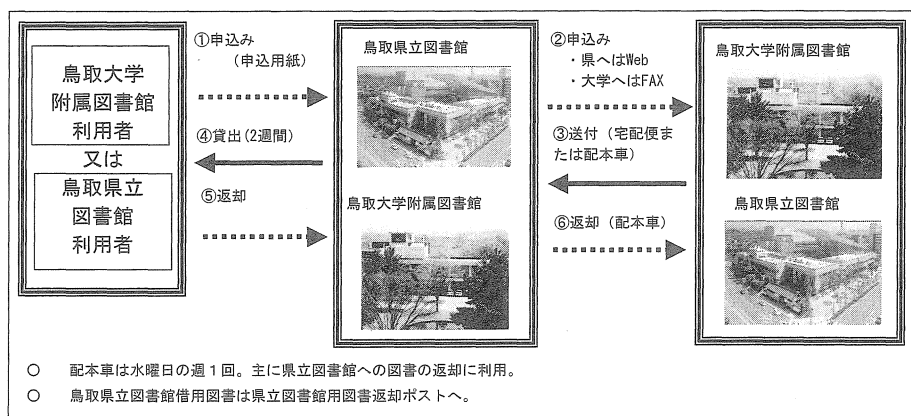


図1 鳥取県立図書館・鳥取大学附属図書館の相互現物貸借概念図

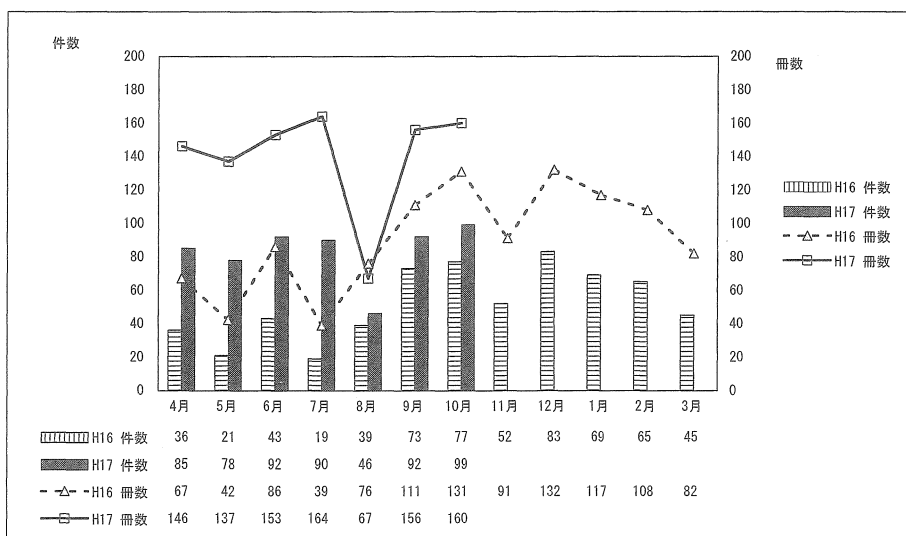


図2 県立図書館図書利用状況

することができる。県立図書館側からの横断検索については、平成18年2月に予定されている県立図書館システムの更新を契機に実現する予定である。

自治体の長が図書館の必要性を唱えることは皆無に近い中で、片山鳥取県知事は知の地域づくりの知的拠点としての図書館の役割をしっかりと認識されている。その精神は県立図書館職員にも脈々と受け

継がれていることから、今後は公開展示・講演会などの共同開催・職員の相互交流等についても、積極的な進展が図れるものと考えている。

5. 鳥取市立中央図書館との連携

鳥取市立中央図書館（以下、市立図書館という）は鳥取駅から徒歩15分程度の場所にあったが、平

成17年5月、鳥取駅から歩いて3分の市役所駅南庁舎二階にリニューアル開館した。この移転により面積1,364 m²の1フロアからなる一般書4万冊を所蔵する図書館が鳥取駅のすぐ近くに出現した。

平成17年5月中旬、本学から相互協力の話を持ちかけた。協定締結までに計6回の担当者間の協議の場を持ち、平成17年10月1日から相互協力を開始した。相互協力の事項としては県立図書館との協定内容とほぼ同様であるが、県立図書館との協定事項上で「図書館利用者講座に関すること」という事項については、より具体的に「図書館講演会及び公開展示に関すること」に改めた。

市立図書館資料は、インターネットから貸出予約を行うことができる。その際に市立図書館の利用者カード番号やパスワード等の入力と同時に、本学関係者（鳥取地区キャンパスの利用者のみ）は、資料の受け取り希望場所として「鳥取大学図書館」を選ぶことができる。その処理を実施すると、リアルタイムに市立図書館のプリンタに予約資料が印刷される仕組みになっている。予約した資料は貸出可能であれば、毎週月・水・金曜日に巡回している市立図書館の配本車によって本学中央図書館に搬送される。資料予約を行った利用者には、市立図書館から直接メールあるいは電話で、いつ資料を希望の場所で受け取ることができるのかが連絡されるシステムとなっている。本館職員は利用者が持参する市立図書館利用者カードで本人確認を行い、届いた資料を利用者に手渡すだけである。資料の返却は本学中央図書館内に設置している県立図書館ならびに市立図書館兼用の図書返却ポストに返してもよいし、市立図書館のカウンターで直接返却してもよい。前述した県立図書館との事例は図書館間の現物貸借であるが、この市立図書館との事例は個人貸出であり、延滞があった場合の督促も市立図書館側で行うシステムとなっている。

市立図書館の利用者登録についても本学中央図書館に申請書を常備している。その申請書に記入していただき、それを次回の配本車で市立図書館に届けると、数日後には図書資料と一緒に市立図書館利用者カードが配本車で届けられ、カウンターで手渡すことができる仕組みとなっている。

市立図書館側からの依頼については、毎週3回巡回している市立図書館の配本車を利用して搬送することになる。このシステムの概要は図3のとおりである。

大学図書館との相互協力協定に関する市立図書館側の一番大きなメリットは、大学図書館と連携することにより人材の宝庫である大学教員の協力を得

て、講演会やシンポジウムなどの市民向けのイベントの開催がより円滑に行えることにある。また、本学のメリットは県立図書館との連携と同様である。

6. 米子市立図書館との連携

米子市立図書館（以下、米子図書館という）は、本学医学部分館のある米子キャンパスから歩いて5分程度の距離にある。

平成17年5月中旬、鳥取地区で鳥取市立図書館との相互協力協定の話始めた数日後に、図書館情報課長が医学部分館を訪れ、その際に米子図書館との相互協力協定の話を持ち出し、その足で直接、米子図書館を訪問して本学から相互協力協定の申し入れを行った。米子図書館は既に米子工業高等専門学校図書館と相互協力協定を結んでおり、以前から近接する本学医学部分館とも協力協定を結びたいとの願望があったらしく、こちらからの申し入れは「渡りに船」の提案であったようだ。

医学部分館と米子図書館との相互協力については、中央図書館と鳥取市立図書館との相互協力時期に合わせて平成17年10月1日からとした。このことにより、本学附属図書館は従来から相互協力協定を結んでいる県立図書館に加え、平成17年10月から鳥取県東部と西部の両市立図書館と新たに相互協力協定を結んだことになる。

相互協力に関する事項については前述の両図書館と同様である。ただ、米子図書館は相互協力協定調印以前から本学附属病院院内図書館への一般図書の団体貸出を行っていたため、この件も協定に盛り込んだ。また、米子図書館と医学部分館とは近距離であり、米子図書館の資料を医学部分館で貸し出すことの利便性はほとんどないことから、このサービスは実施しないことにした。その代わりに、医学部分館の予算では購入が難しい一般教養書や小説類を米子図書館から3ヶ月間ごとに100冊の貸出を受けることにした。これらの選書については県立図書館から提供を受けている300冊の資料との重複がないように、医学部分館職員が実施することにした。

7. 館種を越えた図書館連携

現在、本学附属図書館は前述したとおり鳥取県大学図書館等協議会加盟館との連携ならびに県内公共図書館3館との連携を行っている。

また、本学附属図書館が発起人となり平成17年6月、鳥取市近辺の県立図書館・鳥取環境大学情報メディアセンターに呼びかけ、各図書館の実務者レベルの会議を企画した。この会議では各図書館の現状を語り合い、各館が現在抱えている様々な課題に

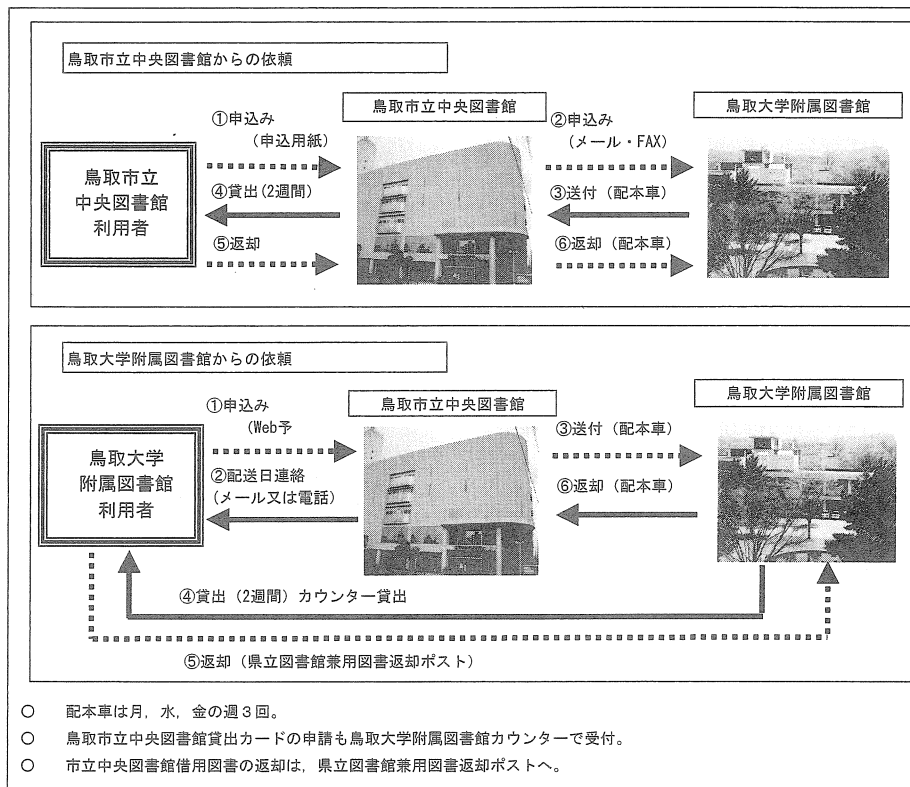


図3 鳥取市立中央図書館・鳥取大学附属図書館の相互現物貸借概念図

についても互いに議論し合った。その中で他館に対する要望や「この点についてはこのように改善していただくことはできないか」といった忌憚のない意見交換もできたと思っている。将来的には職員研修の共同実施や短期間でもよいので職員の人事交流などもできないかといったことも協議し、年3回程度の頻度で会合を持つことで合意した。

第2回目の会議についても本学が中心となり、平成17年11月に実施した。平成17年10月、本学附属図書館が市立図書館との相互協力協定を結んだこともあり、第2回目の会議からは市立図書館にも参加を呼びかけ、4館での協議となった。この会議では、

- 1) 県立図書館システムの更新
- 2) 県立高校教員への鳥取大学資料の貸出
- 3) 共同企画事業
- 4) 短期職場体験研修
- 5) その他

について協議した。1)については、県立図書館システムの更新内容の説明を受け、既存の横断検索システム等との整合性や新たな利用者サービスについて意見交換を行った。2)については、県立図書館の搬送システムを利用し、本学の資料を県立高校教員に貸し出すことにし、詳細事項については両者で検討することとなった。3)については、県立図書館のインターネットサービスの一環として検討しているレファレンスデータベースへのデータ入力を4

館共同で実施し、その内容を国会図書館のレファレンス共同データベースにアップロードする方向で検討することとなった。4)については、1週間程度の相互職場体験研修を4館で実施することを協議し、まずは本学と県立図書館間で先行して実施できるように詳細事項をつめていくことになった。

また、その他の協議事項として、公共図書館の職員研修の講師として本学図書館職員を派遣すること、鳥取環境大学と本学間の現物貸借に市立図書館の搬送車を利用し、送料なしで実施することなどが協議され、実施に向けて調整することとなった。

このように鳥取市内にある2大学、2公共図書館が一堂に会し、話し合いを行う機会は今まではなかったことであるが、館種を異にする図書館が互いに話し合うことで、様々な新しい取り組みが産声をあげようとしている。同一地域で図書館活動を展開している仲間同士が語り合い協力し合うことで、鳥取地区には「新しい風」が吹き始めている。

良い仕事を生み出す土壌として必ずといっていいほど、その裏には良い人間関係があると私たちは思っている。図書館活動というものの自体、多くの図書館の連携のもとに成り立っていることを思うと、やはりひとつの図書館だけでは解決できないことが多くあるのも現実である。館種を異にする地域の図書館が手を携え、行政の助けも借りながら交流を深め、地域住民にとってもメリットのある新たな

試みが鳥取地区から芽生えてくるように努力したいと思っている。

8. 公共図書館施策会議への参画

本学附属図書館は、従来から図書館長が「鳥取県立図書館協議会」の委員として県の図書館運営に参画している。また、平成16年度には図書館情報課長が「鳥取県立図書館新図書館システム構築企画提案書評価委員長」を務め、平成17年12月の県立図書館システムの更新に寄与した。平成17年度には、図書館長ならびに図書館情報課長が「鳥取県立図書館図書館像策定委員会」委員として、県立図書館の将来像策定に貢献している。

市立図書館事業への参画としては平成17年7月から図書館情報課長が「鳥取市図書館整備計画策定検討委員長」を務めている。市町村合併により拡大した広大な地域に対して、サービス格差なく利用者満足度を高める図書館サービスをどのように展開していくことができるのかといった非常に難しい課題について、地域住民の代表とともに頭を悩ませている。

9. 講演会・公開展示

本学附属図書館では、従来から年1回の講演会・公開展示の開催を行ってきた。平成16年度からは講演会については年2回の開催を目標に実施している。これらの講演会・公開展示は地域住民にも公開し、ホームページへの掲載・公共図書館や駅の掲示板などへのポスターの掲示などによって広く参加を呼びかけている。

これに加えて、平成17年度は市立図書館ならびに米子図書館と相互協力協定を結んだこともあり、市立図書館とは10月末に共催でシンポジウム「日本酒の魅力、地酒の魅力－文化に支えられた伝統とハイテク醸造技術－」を開催した。また、米子図書館とは10月初旬に共催で「チャレンジコミュニケーション－コミュニケーション上手になるために－」という講演会を開催した。

講演会や公開展示を開催していつも感じることは、大学というところはまだまだ地域住民には敷居が高く、なかなか気軽に学内に入ってもらえる環境にはなっていないということである。大学の正門前には守衛室があり、地域住民がふらっと入っていいものかのためらいもあるようだ。また、大学内で講演会を開催すると、学術的な難しい内容の講演会のように受け取られがちで、地域住民の参加が少ないといった傾向がみられる。それに比べると公共図書館はいつでも誰でもが気軽に入って行ける雰囲気をもっている。

幸いなことに、本学が相互協力協定を結んだ公共図書館はいずれも本学に比べると交通の便も良い。また、大人数を収容可能な会議室を有しているため、今後は講演会・公開展示等にそれらの施設をできるだけ活用させていただき、より多くの地域住民に気軽に参加していただけるようなイベントを共催して企画できれば良いと思っている。

10. 職場体験学習・インターンシップ

本学附属図書館では平成12年から図書館の社会貢献の一環として、地元の中学2年生を対象とした「職場体験学習」を受け入れている。平成17年は、地元の中学校ならびに本学附属中学校の生徒を受け入れた。時期は両校とも毎年6月後半から7月初旬にかけてである。1回の受入生徒数は、以前は最大で5名程度を受け入れたこともあったようだが、現在では3名以内ということで中学校にはお願いしている。

表2は今年度実施した職場体験学習期間5日間のスケジュールである。大学概要・図書館概要に始まり、カウンター業務・受入業務・文献複写・書架整理・情報検索・電子ジャーナル・ホームページ紹介と盛りだくさんの内容となっている。

職場体験学習期間中は各々の業務担当の職員が生徒たちにつき、業務の内容を丁寧に教え実際に仕事をしてもらうことに重点を置いた指導を行っている。また、生徒たちに業務を教える職員については、できるだけ生徒たちとの年齢差の少ない職員を当て、彼らがあまり緊張せずに体験学習に励めるように配慮している。

インターンシップについては今年度初めて受け入れを表明し、結果として本学学生1名の応募があった。夏休みの8月29日から9月2日までの5日間、図書館業務の実習を行った。5日間の実習内容については中学生の職場体験学習とは異なり、より深く業務に入り込んだ指導を心掛けた。カウンター業務・国立情報学研究所を通じての書誌作成・文献複写等相互貸借業務・電子ジャーナル・蔵書検索・学位論文検索ホームページ作成などについて実習指導を行った。

11. おわりに

本学附属図書館は近隣の大学図書館や公共図書館との連携をより一層深め、地域に密着した図書館として生まれ変わろうとしている。その中で、地域住民が大学図書館に何を求めているかということにも十分に耳を傾け、公共図書館との資料収集上の棲み分けや大学図書館ならではのサービス内容の充実に

表2 職場体験学習計画表

月 日	時 間	活 動 内 容	担 当 者
6月20日（月）	9：00～	受入式開会 挨拶 自己紹介 〃 オリエンテーション（5日間の予定紹介）	係長以上 学術情報部長 実習生 図書館側全員 図書館情報課長
	9：20～9：50	大学概要	学術情報部長
	9：50～10：20	図書館概要	図書館情報課長
	10：20～10：50	館内案内	専門員
	10：50～11：00	休憩	
	11：00～12：15	学内案内	専門員
	12：15～13：00	休憩（昼食）	
6月21日（火）	13：00～15：00	カウンター業務	資料サービス係
	9：00～10：30	図書受入・整理業務	資料管理係
	10：30～10：45	休憩	
	10：45～12：15	カウンター業務	資料サービス係
	12：15～13：00	休憩（昼食）	
6月22日（水）	13：00～15：00	雑誌受入・整理業務	学術情報係
	9：00～10：30	文献複写（依頼）業務	資料サービス係
	10：30～10：45	休憩	
	10：45～12：15	文献複写（受付）業務	資料サービス係
	12：15～13：00	休憩（昼食）	
6月23日（木）	13：00～15：00	図書受入・整理業務	資料管理係
	9：00～10：30	書架整理・配架業務	資料サービス係
	10：30～10：45	休憩	
	10：45～12：15	カウンター業務	資料サービス係
	12：15～13：00	休憩（昼食）	
6月24日（金）	13：00～15：00	情報検索，電子ジャーナル，ホームページ紹介	学術情報係
	9：00～10：30	書架整理・配架業務	資料サービス係
	10：30～10：45	休憩	
	10：45～12：15	カウンター業務・生徒インタビュー資料サービス係	資料サービス係
	12：15～13：00	休憩（昼食）	
	13：00～14：00	懇談会及びお別れ会	係長以上 （進行：専門員）

努めていかなばならないと感じている。電子ジャーナルやデータベースの地域住民への提供などについても、著作権や契約の許す範囲内で積極的に進めていきたいと考えている。

現在、公共図書館においては一般サラリーマン諸氏等を対象としたビジネス支援が盛んである。本学鳥取地区の中央図書館は、約2,000冊のビジネス関係資料を所蔵している。また、今年度から始めたばかりではあるが、ベストセラーの小説なども年間30万円程度購入している。さらに、医学部分館には140冊程度にすぎないが、「闘病記」関連の資料も保

有している。これらの資料についても地域住民や入院患者に広く利用していただけるように、より積極的に広報活動を展開していきたいと考えている。

現在私たち図書館員が要求している「学術情報館」が近い将来実現すれば、図書館施設としても、より快適な利用空間を地域住民に提供できるものと期待している。

<2005.11.21 受理 しらき としお 鳥取大学学術情報部図書館情報課長，もりた ただし 同課資料サービス係長>

Toshio SHIRAKI, Tadashi MORITA

On the Social Contributions of Tottori University Library

Abstract: Tottori University Library was one of a handful of national university libraries that maintained an open door policy towards area residents since its doors first opened. These days, the library not only cooperates with other academic libraries within Tottori Prefecture, but has also actively reached out to cooperate with public libraries in its area as well. Its goal is to develop activities that will improve user services and promote the library as user-friendly to area residents. In the area of social contribution, the library has established a practicum and internship program, and actively participates in public library operational meetings

Keywords: Social Contributions / Regional Contributions / Social Cooperation / Mutual Cooperation / Open Libraries / Library Cooperation / Practicum / Internship